

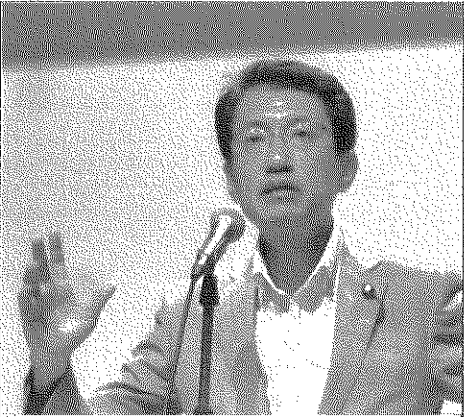
国は被災者支援に総力を

災害対応よりカジノ法案優先を批判

日本共産党西部地区委員会は15日、田村貴昭衆議院議員を迎えて、党創立96周年記念の演説会を大山文化センターで開催しました。豪雨災害による被災者の支援よりカジノ法案や「自民党の都合に合わせた」選挙制度強行を厳しく批判しました。

15日は37度以上の猛暑が続くうだるような暑さの中、会場にたくさんの参加者が詰めかけました。

主催者を代表し、日隈知重西部地区委員長が「政治を変えるには野党共闘以外にない、来年は2つの選挙



熱く訴える田村貴昭議員

がある。市議選では3名を指し、参議院選挙で躍進のために「ご支援を」と訴えました。大谷市議が党議員団の災害復旧での活動、国保や給食費無料化を目指す取組を報告し、引き続き頑張ると決意を述べました。

田村衆議院議員は、西日本豪雨が昨年の九州豪雨と比べると数倍の規模となっていることを示し、党議員団が連日現地調査や被災者支援に奮闘する活動を紹介しながら「国の支援金は全壊世帯でも最大300万円。半壊世帯は対象にならない」



左から大谷、田村、日隈の各氏

「300万円の上限をせめて500万円に引き上げる。半壊も対象にする被災者生活再建支援法の改正を野党共同で出しているが、自民・公明はカジノを優先し審議しない。被災者に寄り添わないこんな政権は退陣してもらおう」と力を込め批判しました。最後に党の96年間の党史を紹介し、野党共闘をさらに大きく前進させるためにも、日本共産党を大きくすることに「ご協力を」と訴えました。当日会場ですべて訴えた西日本豪雨災害の募金は35171円でした。ご協力有難うございました。

「核兵器のない世界」へ

世界大会の成功を目指し、市内を平和行進

被爆73年の今年原水爆禁止世界大会が8月、広島・長崎で開催されます。今年は米朝首脳会談など激動のもとで開催される大会に期待と注目が集まっています。

日田原水協は7月16日に豆田地区の商店街を1時間半かけて行進し、ヒバクシヤ署名の推進や世界大会参加を呼びかけました。今回の行進には広島まで行進する人々、大分を行進する若い参加者も合流し、総勢40名の参加者で元気に行進しま



豆田下町通りを行進する参加者と宣伝カー

した。商店からは激励と募金も寄せられました。昨年7月に国連の会議で

採択された核兵器禁止条約を力に「核兵器のない世界」へどう前進するのかがいま問われています。条約の批准の流れを抑えようとするアメリカなど核保有国動き。日本でも野党が署名と批准を政府に迫っていますが、安倍政権はかたくなに参加を拒んでいます。現状を変えるには禁止条約を実現した諸国政府と市民社会の共同を大きく前進させ世論をさらに大きくする事です。